

この度は、「第 102 回 薬剤師国家試験 回数別既出問題集〔改訂版〕」をご購入いただき、誠に有難うございます。

本書について、以下のとおり補足及び訂正させていただきます。

ご迷惑をお掛け致しまして申し訳ございませんが、何卒宜しくお願い申し上げます。

薬学ゼミナール編集 第 102 回 薬剤師国家試験 回数別既出問題集〔改訂版〕 補足及び訂正一覧表

	訂正前	訂正後
P69 問 63 解説 2	<u>鎮痛薬使用の 5 原則(①経口的に、②時間を決めて規則正しく、③除痛ラダーにそって効力の順に、④患者ごとの個別的な量で、⑤その上で細かい配慮を)があり、……</u>	削除
P257 問 192 解説 3	心筋梗塞発症後、数時間後に ST 波の上昇が認められる。	心筋梗塞発症後、 <u>30 分～2 時間程度で ST 波の上昇が認められる。</u>
P295 問 214 解説 2	……また、バイオ後続品は <u>原則的に先行バイオ医薬品と投与経路が同一である必要がある、先行バイオ医薬品の推奨用量で検討すべきであるが、複数の投与経路及び妥当な用量を選択することが可能である。</u>	……また、バイオ後続品の <u>投与経路は先行バイオ医薬品と同一である必要がある。</u>

下表は、2022 年 5 月の医薬品医療機器等法改正に伴う追補となります。

	訂正前	訂正後
P78 問 72 解説 2	条件及び期限付きで製造販売の承認が認められているのは、再生医療等製品である。	希少疾病用医薬品であることを理由に、期限付きの承認となることはない。条件及び期限付き制度の対象となるのは、再生医療等製品である。また、緊急承認制度の対象となる医薬品、医療機器又は再生医療等製品については、条件及び期限を付して承認が与えられる。

下記は 2024 年 4 月 1 日から食品衛生基準行政が厚生労働省から消費者庁に移管されたことに伴う追補訂正となります。

	訂正前	訂正後
P79 問 73 選択肢 4	4 <u>薬事・食品衛生審議会</u>	4 薬事審議会
P79 問 73 解説 3 行目	…… <u>薬事・食品衛生審議会</u> ……	……薬事審議会……
P94 問 88 解説 3 行目と 8 行目	…… <u>薬事・食品衛生審議会</u> ……	……薬事審議会……

下記は、2024 年 10 月のヘルシンキ宣言 ヘルシンキ改訂の和訳に伴う追補となります。

	訂正前	訂正後
P85 問 79 選択肢 1	人を対象とする医学系研究の倫理的原則である。	<u>人間の参加者を含む医学系研究のための倫理的原則である。</u>

下記は、2026 年 4 月 10 日に第十九改正日本薬局方が告示・施行されたことに伴う追補となります。

	訂正前	訂正後
P238 問 177 解説 5	吸入エアゾールの容器は、通例、耐圧性の密封容器と規定されている。	吸入エアゾールの容器は、通例、耐圧性の密封容器 <u>又は気密容器</u> と規定されている。

下表は、2026 年 5 月 1 日に医薬品医療機器等法が改正されたことに伴う追補となります。

	訂正前	訂正後
P78 問 72 解説 5	希少疾病用医薬品の再審査期間は、最長 10 年とされている。 〈希少疾病用医薬品の定義・支援措置〉 …… ・支援措置 製造販売承認の優先審査、再審査期間の延長(最長 10 年)、……	希少疾病用医薬品の再審査期間は、 <u>原則 10 年</u> とされている。 〈希少疾病用医薬品の定義・支援措置〉 …… ・支援措置 製造販売承認の優先審査、再審査期間の延長、……
P190 問 141 解説 5	……薬剤師が対面で情報提供を行う義務があるものは、薬局医薬品(毒薬及び劇薬でない薬局製造販売医薬品を除く。)及び要指導医薬品である。	……薬剤師が対面で情報提供を行う義務があるものは、 <u>特定要指導医薬品</u> である。
P194 問 143 解説 4	特例承認のことである。……	特例承認 <u>又は緊急承認</u> のことである。… …
P463 問 325 解説 1	……企業報告制度と <u>感染症報告制度</u> である。	……企業報告制度である。
P463 問 325 解説表 見出し	企業報告制度 <u>感染症報告制度</u>	企業報告制度

下記は、2026 年 6 月 16 日炭酸リチウムの電子添文改訂(妊婦投与禁忌解除)に伴う追補となります。

	訂正前	訂正後
P90 問 84 問題	(問題差し替え)	<u>妊娠する可能性のある女性に使用する場合に、催奇形性リスクを患者に説明した上で、使用の可否を慎重に判断する必要がある医薬品はどれか。1 つ選べ。</u>
P90 問 84 解説	(解説差し替え)	1 誤 <u>アセトアミノフェンの投与による催奇形性リスクは報告されていない。</u>

		2 誤 インスリンの投与による催奇形性リスクは報告されていない。 3 正 炭酸リチウムは動物実験で催奇形作用が、またヒトで心臓奇形の発現頻度の増加が報告されているため、妊娠する可能性のある女性に使用する場合には、催奇形性リスクを患者に説明した上で、使用の可否を慎重に判断する必要がある。 4 誤 プレドニゾロンの投与による催奇形性リスクは報告されていない。 5 誤 ヘパリンナトリウムの投与による催奇形性リスクは報告されていない。
--	--	---